



ドイツ証券会社、住宅金融公庫の貸付債権担保債券で共同主幹事

【2004年8月4日、東京】 ドイツ証券会社東京支店（所在地：東京都千代田区、支店長：ジョン・T・マクファーレン）は、先に条件決定された貸付債権担保第21回住宅金融公庫債券が、成功裡に発行され、本日払込み日を迎えた旨を発表しました。なお、本案件は、ドイツ証券会社が、住宅金融公庫の貸付債権担保債券（以下、RMBS）発行において主幹事を務めた初の案件となります。

この度のRMBSは、発行額300億円、表面利率2.06%（条件決定時、国債261回債+27bp）、発行価格は100円、最終償還日は2039年8月10日です。払込期日は2004年8月4日で、利払日は2004年9月10日を第1回として毎月10日となっています。

本証券は、株式会社格付投資情報センター（R&I）およびスタンダード・アンド・プアーズ（S&P）から共にAAA（トリプルA）の格付けを取得しています。

ドイツ証券会社東京支店の中居英治グローバル・マーケッツ本部長は、「今回住宅金融公庫がRMBSを発行されるにあたり共同主幹事を務めさせて頂いたのは、弊社として同公庫によるRMBS発行の初の主幹事にあたり、大変名誉なことと思います。この度の起債では、発行したRMBSの高い信用力に加え、ベンチマークとなる国債に対比したスプレッド設定を行う際に市場実勢を重視する起債運営を行なったことで、投資家の皆さまから強い需要を得ることができました。これも、ひとえに、発行体である住宅金融公庫の住宅ローン担保証券市場におけるこれまでの実績と市場重視の姿勢が反映されたものと考えています」と述べています。さらに、「ドイツ証券会社は、金銭債権をはじめとする証券化ビジネス全般に力を注いでいます。今後も、専門性と総合力を発揮することで、日本の顧客企業の皆さまの証券化に関する多様なニーズにお応えしたいと思っております」と話しています。

以上

ドイツ銀行グループは、総資産約8,490億ユーロを有し、6万5,700人の従業員を擁する世界でも有数の金融機関として、世界74カ国で幅広い金融サービスを提供しています。特に、企業金融、証券・投資銀行、トランザクション・バンキング、資産運用、プライベート・ウェルス・マネージメントの分野では、世界でもトップクラスの金融機関として、その地位を確立しています。また、ドイツおよび欧州大陸主要国においては、個人および中堅企業向けビジネスの分野で圧倒的な強みを発揮しています。

ドイツ銀行グループは、刻々と変化するグローバル市場を舞台に、お客さまに幅広い金融ソリューションを提供していくことを使命としています。私たちは、常に前進を続けるお客さまのニーズに徹底的に応えていくことこそが、株主の皆さまに価値を創造し、私たち自身の成長につながると考えています。

日本においては約1,150名の従業員を擁し、ドイツ証券会社東京支店（日本における代表者兼東京支店長：ジョン・マクファーレン）、ドイツ銀行東京支店（在日支店代表兼東京支店長：相内 泰和）、ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社（代表取締役社長：廣瀬 俊博）、ドイチェ信託銀行株式会社（代表取締役社長：関崎司）を通じ、企業金融、投資銀行業務、プライベートバンキング、資産運用などの広範なサービスを提供しています。

<この件に関するお問い合わせ先>

広報部 安立 聖子

電話: (03) 5156 - 7705

www.japan.db.com